（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人恵寿会		
事業所名	グループホーム　グリーンヒルみふね1号館		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	令和5年3月17日	評価結果市町村受理日	令和5年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http:／／www.kaigokensaku.jp／43／index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみふねは、10年以上勤務しているベテラン職員がおり幅広いケアができている。ひとつ屋根の下で暮らす家族のような関わりで、利用者と一緒に楽しい時間を過ごす事を大事にしている。山の上で環境に恵まれた施設であり、園庭での茶会や、レク、食事と季節を感じる事ができる。利用者も自由に園庭、外苑の散歩ができる環境である。コロナ禍の中での面会制限、会いたいと思われるご家族様には窓越し面会にて様子を見て頂く、また日頃の様子を写真撮影にてお伝えしたりしている。食事は調理担当が作っており、地産地消で地元の新鮮な食材を使い、また利用者のご家族より沢山の手作り野菜の差し入れで豊富な食事を提供する事ができる。食事においても季節を感じる、タケノコやふきのとう、しいたけと利用者の食欲も増してます。「明るく、楽しく、優しく」の理念の基に笑いの絶えないグループホーム作りを目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設時より地域に根ざすべく積極的な活動により、多様なボランティアの訪問や常態化した行事は入居者・家族・地域住民との交流の場して活かされてきたものの、コロナ禍という厳しい現実の中で、新しい取り組みが入居者の日常生活に一層の楽しみとして生かされている。外出の制限には職員の企画力が生かされ、ハロウィンや音大生による芝生でのセッション、園児との焼き芋会、スポーツ大会等は入居者の笑顔を引き出し潤いのある生活に繋げている。共にしての集団ケアと個別ケアにとして寝前の入浴等自由な環境は伸びやかである。毎年恒例である桜の下での撮影会は長年過されている入居者の姿を映し出し、家族の熱い思いと主治医等の協力のもと長年の入居歴のなかでの最終章を支援する等意識を高くして臨む等、ベクトルを同じくして理念の実践に勤しんでいる。。「認知症があっても安全に歩ける町づくり」への企画・参画等認知症ケアを行政と共に発信しており、今後も認知症ケア啓発への取り組みに期待したいホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホーム　グルーンヒルみふね

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共にいきる「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作り基本としている。理念は玄関に貼り、職員の目に付くようにしている。日々の利用者へ、職員同士の間でも理念を基に明るい雰囲気作りの対応をしている。	職員のケアの基本に理念を置き、掲示により職員及び訪問者への啓発の一環としている。コロナ感染症が長引く状況に令和4年度は“温故知新”をもとにスローガンとして“新しく一歩ふみだそう”を掲げている。この新しい取り組みが新風となり、テレビの買い換え等も入居者と職員とが共に楽しめる環境へと繋げる等“共に”とする理念の実践とともに、“個”を尊重していることも、自分の時間（自分で飲みたい時間にお茶を入れ、夕方からの入浴等）で過される姿に表われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（どんどや、校区敬老会、木倉まつり）に例年参加予定であるが、コロナ感染対策のため不参。組長として町内回覧板配布、リサイクル活動、町道掃除（2回）地区の総会や組長会議には参加している。	地域の中で築き上げてきた基盤は確立し、歴代組長として地区に関わり、総会への参加は地元からの意見や要望等を収集する機会に繋げている。また、町道掃除への参加等地地域の一員として活動している。地区の祭り等の行事はコロナ禍により中止されたが、行事が再開されれば住民と共に活動する予定である。民生委員による草取りボランティアとしての訪問やハロウィンでは園児との世代間交流等を行っている。また、音大生による芝生にてのセッション等生音楽に触れる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護研究所と称し、認知症についての理解を深めていただくためにシナリオ作成、動画撮影し勉強の場を提供している。また、オレンジハート木倉の名称で外部への研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策にて運営推進会議は今年度は開催していない。施設での行事等は書面にて報告している。	行政との相談の上、運営推進会議は書面審議として、報告書として行事や委員会活動、研修や入居者の近況報告とともに日常を写真にて開示している。区長や民生委員には手渡しし、家族会代表には報告書を郵送している。	次年度から対面での開催が予定されている。ホームのみならず、地域の課題等のみならず地域の課題も話し合い機会として期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故・苦情・感染症発生した際にも役場に報告し助言を仰いでいる。特に、7月末にコロナ感染クラスターにて綿密なやり取り助言を頂いている。心配な事があれば気軽に相談できる関係ができている。	クラスター発生時には休日にかかわらず役場担当者から連絡が入る等相互連絡をし合いながら収束に至る等これまでの行政との関わりにより何事も相談出来る関係にある。住民からの入居申し出には介護保険課に相談し介護保険申請から携わり、生活保護等も担当部署と相談する等入居者に関係する各関係機関と連携している。また、行政から委託され介護教室（オレンジハート木倉）として研修に出向き、認知症があっても安全に歩ける町づくりに参画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドから転落の恐れがある方に対しては、畳に寝て頂くなど拘束のないケアを実施している。身体拘束ゼロ委員会により、不適切なケアについてのアンケートを基に職員に拘束について考える時間を設けている。	毎月の身体拘束ゼロ委員会の中で事例検討やスピーチロックになる言葉についての話し合いで言い換える言葉を全職員が考えるとともに、アンケートにより拘束と思える事例を集約し、拘束及び虐待の無いケアに努めている。研修については、コロナ禍の中で全員が一堂に会する事が難しく、県との相談により、資料を熟読することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ委員会が月1回の委員会にて虐待防止の発信をしている。今年度はスピーチロックについてのアンケート調査、言い換え言葉の勉強あり言葉の虐待を学んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの社会福祉士がおり質問できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族への十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。同時に特養課入所申し込みの話しも併せてしている。医療的なケアが必要になった時は特養課への入所もあり得ると伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置している。ご家族様の来苑時には利用者様の様子をお伝えするようにしている。ご家族様とのコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気作りを行っている。	家族の面会は窓越しから玄関での対面へとなり、預り金の持参時など意見や要望等を聞き取りしている。入居してまだ日も浅い家族からは電話で様子を尋ねられたり、洋服や髪等気になることは気軽に申し出らる等家族とのコミュニケーションを図り、毎月担当職員による手紙や預り金の残高等を報告することで家族の不安払拭に努めている。	敬老会の開催に向け家族会会長に連絡している。次年度はコロナ感染症対策の緩和により家族会全員に声を掛ける意向であり、行事等に家族に参加を促し、家族との交流や意見を交換する場を検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やイベントの話し合いには参加して職員の意見を聞き、職員からの提案があれば申し送り帳に記入するようにしている。年に1度の職員満足度調査は定着しており直接代表者に提出のしくみがある。	日々のケアの中で(特に食事中)、入居者の日々の違いなどを話し合い、ケア統一を図っている。特に薬の変更による状態変化等を観察し、記録として残すことで状況を共有し、薬を中止したことが功を奏し認知状況の落ち着きや集団生活への馴れ等共に過す事が出来る状況に改善する等職員の意見や提案が入居者の日常に反映させている。職員への満足度調査の継続や有給の推奨、希望休の他、安全衛生委員会もあり、職員の働く環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。個人面談の形式にこだわらず、気軽な声掛けで職員のモチベーションをあげれるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	御船町、又は他の研修会の参加を促している。実践者研修においては当施設で開催されており、受講している。介護福祉士取得のために頑張っている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの上益城ブロック会議、日本防災学会(オンライン会議)アクティビティインストラクター等の研修を受けサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に要望を聞くことにより、自宅により近いような暮らしを続けて頂くよう努めている。また、他のサービスを利用されていた場合には情報収集して安心できる環境を提供するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族に事前訪問、面会し困っている事、不安、要望等を傾聴し安心して頂ける対応を行い信頼を得るように心かけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め検討し対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していく中で、洗濯を干しや洗濯たたみ、梅ちぎり、おやつ作り等を職員と一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が不安な時や、家に帰りたい要望の時にはご家族へ電話をして会話して落ち着いてもらっている。担当職員からは1ケ月に一度の手紙にて近況報告をしている。また、イベント行事等の写真を送ったりしている（コロナ感染対策にて面会制限のため）		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人の面会がある（窓越し面会）また、同じ敷地内にある特養やディサービスに出掛けて友人と話したりできる環境を作っている。 他部署に奥様が入所中である方は毎週月曜日に会いに行かれる。	隣接のデイサービスに出かけ友達と会うことでリフレッシュされたり、一日は神社への参拝、月曜日毎に訪問される家族、入所先の奥様に合いに出向く入居者、初詣、義姉妹での入居、携帯を持込み家族との連絡を取り合う方、馴染みの床屋の利用（家族の支援）、家で飲んでいたとしての飲酒（こだわりのあるビール）等入居者がこれまでのつながりの中で生きることを職員や家族の協力により継続して支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談してよいとお伝えしている。 亡くなられた方のご家族様は、時々電話をかけてきたり野菜を差し入れしてくださる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや申し送入りで一人ひとりの過ごし方や様子を皆で検討している。その後、家族にも伝えている。	職員は入居者と近い距離での会話や目線での会に努め、「外に出かけたい」の希望に生家までドライブがてらに立ち寄る等出来うる限り希望に応えている。意思疎通困難や言うことをためらう方等には行動や表情により推察し、非言語的コミュニケーション（ホワイトボード等）による把握する等入居者一人ひとりを知ることで思い等の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中で一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチエック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向に添ったプランを作成している。	入居当初はまずは確認する期間を作り、入居による環境変化が不安や帰宅願望に繋がるとしてホーム生活に慣れ安心した気持ちで過す事をニーズとした具体的なプランを作成している。入居者個々の課題をもとに、入居者及び家族の思いを基に、日々の記録を生かしながら必要な支援とレベル低下の無い暮らしの継続を視点として、個別的且つ具体的なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別に記録を記入し情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てている。また、職員の申し送りノートに気づきを記入、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	白髪が気になる方には職員がカラーリング購入して染めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との世代間交流（焼き芋会）や、音楽大学生の実習での音楽療法等で活気ある楽しい時間を過ごしている。 散髪は、美容師さんが来苑散髪をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、往診、他の専門病院が必要な時は、紹介状を発行して頂いたり緊急時には、医師の指示にて救急搬送を行う等を行っている。	本人・家族の了承のもと全員が協力医療機関をかかり付け医として月1回の訪問診療を支援している。熱発などがあれば主治医に連絡し指示を受けたり、往診も行われている。また、必要に応じて患部など画像を送り指示を受けている。専門医の対応については、現在コロナ禍にありホームで対応しているが、家族による受診も行われている。歯科は必要な方のみ訪問による治療を支援する他、家族より口腔ケアの要望があり毎週訪問によるケアを受けている方もおられる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状況に少しでも変化がある場合は、看護スタッフが主治医に報告し指示をもらっている。また、看護スタッフ不在の場合でも、本館の看護師との協力体制も出来ておりいつでも相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所期間が1ケ月と規定されており安心して治療ができるように情報交換を行い（相談員）早期退院に向けて主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業所で出来る内容を家族に説明し方針を共有している。施設にて看取りを希望される利用者の場合は、急変時どうするのかを再確認し、主治医から家族への説明も行っている。	本人・家族が望まれる場合は、医療中心の生活で無ければ看取り支援を行うことを家族に伝えて、リスクについて書面をもとに説明し同意者を交わしている。家族の思いが変化することを認識し、話し合いを重ね、昨秋長い入居歴の中での看取りを支援し、家族の希望により在宅酸素を利用している。コロナ禍により面会は控えていたが、ベランダから居室に入れる環境もあり対策を施し、家族が付き添われている。	入居者が家族と最期のひと時を過ごす時間を支援できたことは良かったと職員から言葉が出されている。改めて看取りのカンファレンスなどは持たれていないが、本人を偲びながら出された意見などは記録に残しておくことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討して、更に事故防止委員会にて再検討を行っている。救急搬送の場合の救急車連絡の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。防災担当者との協力にてBCP策定がほぼ完成、今後グループホーム職員全員に周知、だれもが動ける災害に強いチーム作りを目指す。	今年度の避難訓練は11月に日中を想定し、2月に夜間想定で実施している。訓練後に出された「初期消火が早すぎた」などの反省点は今後に活かすこととしている。備蓄は食倉庫に乾物などを中心に確保しており、台風接近時は養生テープを貼る事などを徹底している。グループホームに防災士2名が在籍している。	今後も法人と連携しながらあらゆる災害について対応策を検討し、必要な訓練などに取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や人格を尊重した言葉かけ、プライバシーに配慮、一人ひとりに合った対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。	個々の尊厳やプライバシーに配慮した声掛けなどを共有し同性介助への希望にも応じている。管理者は親しみはあっても、方言は節度のある言葉使いが必要であるとしている。呼称は苗字が主であるが同姓者がある場合は、下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれには本人の希望を聞きながら必要なサポートを行っている。コロナ禍で散髪の間隔が伸びたことや、同じ衣服の着用にならないようになど、今後も家族からの要望も受け止めながら取り組んでいきたいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握し会話や関わりをして、表情の観察で心情を考え、納得して頂けるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で過ごしたいと言われる方には、居室でTV視聴し入浴も入りたい時に入る事ができている。また、夕食時にビールを飲む習慣の方にもビールの提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色合いやバランスに配慮したおしゃれ支援を行っている。ご家族が衣類購入され届けられものは、すぐに着てもらうようにしている。散髪は、地域の訪問散髪を利用しヘアスタイルを保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	2号館ホール内に調理場があり、いつも食欲をそそる匂いが漂っており調理をしている場面を利用者も見ている。食事時間を楽しみにされている様子がうかがえる。食後の片付けは習慣化している また、園庭の梅をちぎり、利用者と一緒に梅ジャム作り食べている。	献立は冷蔵庫内を確認しながら家庭的な料理を心掛けている。毎週我が家で育てた野菜を差し入れる家族や入居者と近い距離で作り料理の音や匂いは食への思いを引き出し、レクレーションとして庭先でのランチ、たこ焼作りや焼き芋会も企画されている。焼き芋を食べながら「から芋ほり」「山芋ほり」「竹の子ほり」と入居者との話題は尽きなく、賑やかな光景である。入居者が普段の調理に関わる機会は難しくなっているが、恒例の敷地内での梅契りやその後のジャムづくり、テーブル拭きなどに取り組まれている。職員1名が入居者と同じものを摂っており、気づきなどを伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように栄養バランスを考えて調理している。また、その人にあった食事形態を考えて提供している。義歯なしの方や、早食いの方には食べやすくカットをしたり、二度炊きにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、自立の方の継続や個々に応じて声掛け・誘導などが行われている。トイレは2か所設けられ、夜間のみ使用される方のポータブルトイレと共に、気持ちよく使用でいるよう清潔に管理している。食事三食には野菜や乳製品を多く取り入れ、お茶や好みの飲料からの水分補給、レクレーションなどによる運動など便秘の予防に対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給（乳製品を含む）確実に摂取している。体操も午前、午後と取り入れて体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前10時から開始している。週2回の入浴、曜日で割り振りしているが順番は本人の希望で異なる。寝る前がいいという利用者には、夕食後のシャワー浴で対応している。ゆず湯や菖蒲湯の提供も行って季節感を味わっている。	週2回の入浴を「お風呂が沸いていますよ」と声をかけて支援し、拒否のある方には職員2名で対応している。入居間もない方で「家に帰って入る！」と言われていた方も現在はスムーズに入浴をされている。可能な限り浴槽に浸かってもらっているが、シャワー浴が中心になられた方もおられる。中には就寝前を希望される方もあり、夕食後に入浴やシャワー浴で対応している。季節湯（菖蒲・柚子）も継続して取り組んでおり、菖蒲を頭に巻くなど昔ながらの慣習に入居者も喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクレーション、天気の良い日には外気浴にて陽を浴びたりしている。夜間はゆっくり寝て頂くように居室内の電器は豆電球にて対応している。日中の昼寝希望の方は長すぎない様に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護師から主治医への報告を行い指示を仰いでいる。特に、増えたり減ったりする薬の場合には、申し送りノートにて要観察の記入があり職員への周知がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯ほし、園庭の掃除、職員と一緒に創作レクをしたり、脳トレや歌を歌ったり、散歩に出かけたりして気分転換を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策にて、外出がほとんど出来ていません。少し落ち着いた頃、誰もいない場所への数人での外出は出来ている。（神社へのお参り）　家族様が、利用者をパーマかけて染めてあげたいとの事で馴染みの床屋さんへ行かれた（感染対策あり・落ち着いていた時期）	広大な法人敷地内は手入れが行き届き、散歩をしながら季節の樹木の開花などを楽しめる。また、ホーム中庭にはお茶を楽しめるようテーブルと椅子が置かれ、夜間はソーラーで灯りがとれるようになっている。コロナ禍で以前のようなドライブは控えているが、ホーム周辺の環境を生かし、希望により外気に触れる機会をを作り、恒例である開花した桜の下での写真撮影、日常的な散歩の様子等広報紙で紹介している。	コロナ感染症予防の緩和により、地域への外出や自宅への帰省等、今後も家族の協力も得ながら支援されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば電話したり、取り次いだりしている。利用者の中に携帯電話を持っておられるが出ることが難しいので代わりに電話に出て変わって差し上げる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが広いので、鉢植えや花を飾り、時々アロマを炊いたりして心地よく過ごすための工夫をしている。季節ごとに壁の飾りを変えてみたり、最近はTVでのUチューブ利用し心地よい音楽を流したりしている。	開設や造りが異なるユニットは1号館、2号館と命名され、お隣さんの距離で建っている。ホーム内の雰囲気は異なるが双方のユニット職員が連携を図りながら入居者が居心地よく過ごせる空間に努めている。玄関先やホーム内には季節の鉢や草花が飾られ、時にはアロマを炊き香りでリラックスしてもらってる。入居者の身体状況や相性などに配慮して席が配置され、日課の新聞を読まれる方、賑やかな中入居者同士の気遣いなど日常の光景が見られた。2号館ではユーチューブ対応のテレビに変更し、体操や歌など職員も一緒に楽しんでおり、1号館には職員が伝授し同様の活動ができるようにしている。	ホーム内は清潔に管理されており、今後は洗剤など入居者の目線で危険はないか等確認する機会をもたれることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きな利用者さんにはソファーや椅子の位置を考えて配置。また廊下の途中に休めるように椅子を用意している。園庭にはベンチとテーブルを置きいつでも座り外気浴を楽しめるようにしている。夜間にはオシャレな電気が付くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、全てご家族様にお願いするようにしている。住み慣れた家の家具、写真や持ち物などが目に付く事により安心できるプライベートルームとなると考える。居室のドアには、かわいい絵を貼りわかりやすい工夫をしている。	居室には掃き出し窓や外が眺めることが出来、入居者が落ち着いて過ごせる空間となっている。押入れが2か所設けてあり、使用しない衣類や排泄用品などの収納の他、自宅の荷物殆どを持ち込まれた方もおられる。家族が家での生活の延長となる事を望まれ、置時計やテーブル、椅子などを持ち込まれた方、職員の工夫で居室に本人の入浴日（月・木）を掲示してある部屋も見られた。また、自らボトルにお茶を入れ居室に持ち帰り水分補給をされる方など、自分の部屋として過ごされていることが窺える。	コロナ禍にあり必要な物品や衣類などを家族に持参してもらい、衣替えや整頓は職員が行っている。今後感染症の状況を見ながら、家族も一緒に環境整備に取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりが出来る事を把握し、それぞれの支援目標を設定し自立に向けた行動計画を実施している。		

（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人恵寿会		
事業所名	グループホーム　グリーンヒルみふね2号館		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	令和5年3月17日	評価結果市町村受理日	令和5年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http:／／www.kaigokensaku.jp／43／index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみふねは、10年以上勤務しているベテラン職員がおり幅広いケアができている。ひとつ屋根の下で暮らす家族のような関わりで、利用者と一緒に楽しい時間を過ごす事を大事にしている。山の上で環境に恵まれた施設であり、園庭での茶会や、レク、食事と季節を感じる事ができる。利用者も自由に園庭、外苑の散歩ができる環境である。コロナ禍の中での面会制限、会いたいと思われるご家族様には窓越し面会にて様子を見て頂く、また日頃の様子を写真撮影にてお伝えしたりしている。食事は調理担当が作っており、地産地消で地元の新鮮な食材を使い、また利用者のご家族より沢山の手作り野菜の差し入れで豊富な食事を提供する事ができる。食事においても季節を感じる、タケノコやふきのとう、しいたけと利用者の食欲も増してます。「明るく、楽しく、優しく」の理念の基に笑いの絶えないグループホーム作りを目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

事業所名：グループホームグルーンヒルみふね （2号館）

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作り基本としている。理念は玄関に貼り、職員の目に付くようにしている。日々の利用者へ、職員同士の間でも理念を基に明るい雰囲気作りの対応をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（どんどや、校区敬老会、木倉まつり）に例年参加予定であるが、コロナ感染対策のため不参。組長として町内回覧板配布、リサイクル活動、町道掃除（2回）地区の総会や組長会議には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護研究所と称し、認知症についての理解を深めていただくためにシナリオ作成、動画撮影し勉強の場を提供している。また、オレンジハート木倉の名称で外部への研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策にて運営推進会議は今年度は開催していない。施設での行事等は書面にて報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故・苦情・感染症発生した際にも役場に報告し助言を仰いでいる。特に、7月末にコロナ感染クラスターにて綿密なやり取り助言を頂いている。心配な事があれば気軽に相談できる関係ができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドから転落の恐れがある方に対しては、畳に寝て頂くなど拘束のないケアを実施している。身体拘束委員会により、不適切なケアについてのアンケートを基に職員に拘束について考える時間を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ委員会が月１回の委員会にて虐待防止の発信をしている。今年度はスピーチロックについてのアンケート調査、言い換え言葉の勉強あり言葉の虐待を学んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの社会福祉士がおり質問できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族への十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。同時に特養課入所申し込みの話しも併せてしている。医療的なケアが必要になった時は特養課への入所もあり得ると伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置している。ご家族様の来苑時には利用者様の様子をお伝えするようにしている。ご家族様とのコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気作りを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やイベントの話し合いには参加して職員の意見を聞き、職員からの提案があれば申し送り帳に記入するようにしている。年に1度の職員満足度調査は定着しており直接代表者に提出のしくみがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。個人面談の形式にこだわらず、気軽な声掛けで職員のモチベーションをあげれるように心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	御船町、又は他の研修会の参加を促している。実践者研修においては当施設で開催されており、受講している。介護福祉士取得のために頑張っている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの上益城ブロック会議、日本防災学会（オンライン会議）アクティビティインストラクター等の研修を受けサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に要望を聞くことにより、自宅により近いような暮らしを続けて頂くよう努めている。また、他のサービスを利用されていた場合には情報収集して安心できる環境を提供するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族に事前訪問、面会し困っている事、不安、要望等を傾聴し安心して頂ける対応を行い信頼を得るように心かけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め検討し対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していく中で、洗濯を干しや洗濯たたみ、梅ちぎり、おやつ作り等を職員と一緒に行うようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が不安な時や、家に帰りたい要望の時にはご家族へ電話をして会話して落ち着いてもらっている。担当職員からは1ケ月に一度の手紙にて近況報告をしている。また、イベント行事等の写真を送ったりしている（コロナ感染対策にて面会制限のため）		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人の面会がある（窓越し面会）また、同じ敷地内にある特養やディサービスに出掛けて友人と話したりできる環境を作っている。 他部署に奥様が入所中である方は毎週月曜日に会いに行かれる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談してよいとお伝えしている。 亡くなられた方のご家族様は、時々電話をかけてきたり野菜を差し入れしてくださる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや申し送入りで一人ひとりの過ごし方や様子を皆で検討している。その後、家族にも伝えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中で一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチエック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向に添ったプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別に記録を記入し情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てている。また、職員の申し送りノートに気づきを記入、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	白髪が気になる方には職員がカラーリング購入して染めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との世代間交流（焼き芋会）や、音楽大学生の実習での音楽療法等で活気ある楽しい時間を過ごしている。 散髪は、美容師さんが来苑散髪をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、往診、他の専門病院が必要な時は、紹介状を発行して頂いたり緊急時には、医師の指示にて救急搬送を行う等を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状況に少しでも変化がある場合は、看護スタッフが主治医に報告し指示をもらっている。また、看護スタッフ不在の場合でも、本館の看護師との協力体制も出来ておりいつでも相談できる環境である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所期間が1ケ月と規定されており安心して治療ができるように情報交換を行い（相談員）早期退院に向けて主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業所で出来る内容を家族に説明し方針を共有している。施設にて看取りを希望される利用者の場合は、急変時どうするのかを再確認し、主治医から家族への説明も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討して、更に事故防止委員会にて再検討を行っている。救急搬送の場合の救急車連絡の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。防災担当者との協力にてBCP策定がほぼ完成、今後グループホーム職員全員に周知、だれもが動ける災害に強いチーム作りを目指す。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や人格を尊重した言葉かけ、プライバシーに配慮、一人ひとりに合った対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握し会話や関わりをして、表情の観察で心情を考え、納得して頂けるような対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で過ごしたいと言われる方には、居室でTV視聴し入浴も入りたい時に入る事ができている。また、夕食時にビールを飲む習慣の方にもビールの提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色合いやバランスに配慮したおしゃれ支援を行っている。ご家族が衣類購入され届けられものは、すぐに着てもらうようにしている。散髪は、地域の訪問散髪を利用しヘアスタイルを保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	2号館ホール内に調理場があり、いつも食欲をそそる臭いが漂っており調理をしている場面を利用者も見ている。食事時間を楽しみにされている様子がうかがえる。食後の片付けは習慣化している。 また、園庭の梅をちぎり、利用者と一緒に梅ジャム作り食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように栄養バランスを考えて調理している。また、その人にあった食事形態を考えて提供している。義歯なしの方や、早食いの方には食べやすくカットをしたり、二度炊きにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給（乳製品を含む）確実に摂取している。体操も午前、午後と取り入れて体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前10時から開始している。週2回の入浴、曜日で割り振りしているが順番は本人の希望で異なる。寝る前がいいという利用者には、夕食後のシャワー浴で対応している。ゆず湯や菖蒲湯の提供も行って季節感を味わっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクレーション、天気の良い日には外気浴にて陽を浴びたりしている。夜間はゆっくり寝て頂くように居室内の電器は豆電球にて対応している。日中の昼寝希望の方は長すぎない様に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護師から主治医への報告を行い指示を仰いでいる。特に、増えたり減ったりする薬の場合には、申し送りノートにて要観察の記入があり職員への周知がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯ほし、園庭の掃除、職員と一緒に創作レクをしたり、脳トレや歌を歌ったり、散歩に出かけたりして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策にて、外出がほとんど出来ていません。少し落ち着いた頃、誰もいない場所への数人での外出は出来ている。（神社へのお参り）　家族様が、利用者をパーマかけて染めてあげたいとの事で馴染みの床屋さんへ行かれた（感染対策あり・落ち着いていた時期）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば電話したり、取り次いだりしている。利用者の中に携帯電話を持っておられるが出ることが難しいので代わりに電話に出て変わって差し上げる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが広いので、鉢植えや花を飾り、時々アロマを炊いたりして心地よく過ごすための工夫をしている。季節ごとに壁の飾りを変えてみたり、最近はTVでのUチューブ利用し心地よい音楽を流したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きな利用者さんにはソファーや椅子の位置を考えて配置。また廊下の途中に休めるように椅子を用意している。園庭にはベンチとテーブルを置きいつでも座り外気浴を楽しめるようにしている。夜間にはオシャレな電気が付くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、全てご家族様にお願いするようにしている。住み慣れた家の家具、写真や持ち物などが目に付く事により安心できるプライベートルームとなると考える。居室のドアには、かわいい絵を貼りわかりやすい工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりが出来る事を把握し、それぞれの支援目標を設定し自立に向けた行動計画を実施している。		